

アジア初開催 25日から国際歴史言語学会

世界の言語の歴史や変化について議論する第20回国際歴史言語学会が25～30日、大阪府吹田市の国立民族学博物館（民博）で開かれる。アジアでの開催は初めてで、日本語の起源や世界の手話などもテーマになっている。意義や狙いについて、学会長・実行委員長の菊澤律子・民博准教授（44）に写真に聞いた。【佐々木泰造、写真も】

——歴史言語学は何を研究する学問ですか。

◆同じ先祖から発達した言語を比較して、共通する特徴がどこまでさかのぼれるか、いつ分岐したのかといった系統関係を調べます。最近では、系統だけでなく、長期的、短期的に言葉がどのように変化するか、どのような分析方法があるか、ということも議論の対象になっています。

——どうして今までアジアでは開催されなかったのですか。

◆歴史言語学は主として印欧諸語を対象として発達してきました。この学会への参加者も印欧諸語の研究者が多く、隔年で北米とヨーロッパで交互に開催されてきました。

——どちらからも遠いオーストラリアの研究者の提案で、初めて太平洋地域で開催された2001年から、私自身は毎回、参加しています。私が専門とするオーストロネシア諸語（台湾、東南アジア島嶼部、太平洋、マダガスカル言語）については国際オーストロネシア学会があるのですが、他の語族の研究者がどういう研究をしているのか知りたいと、印欧諸語が中心のこの学会に参加したのです。

最近では印欧諸語以外の言語の研究参加が増えてきていま

学会長・実行委員長 菊澤律子・民博准教授に聞く

——歴史言語学は何を研究する学問ですか。

◆同じ先祖から発達した言語を比較して、共通する特徴がどこまでさかのぼれるか、いつ分岐したのかといった系統関係を調べます。最近では、系統だけでなく、長期的、短期的に言葉がどのように変化するか、どのような分析方法があるか、ということも議論の対象になっています。

——どうして今までアジアでは開催されなかったのですか。

◆歴史言語学は主として印欧諸語を対象として発達してきました。この学会への参加者も印欧諸語の研究者が多く、隔年で北米とヨーロッパで交互に開催されてきました。

——どちらからも遠いオーストラリアの研究者の提案で、初めて太平洋地域で開催された2001年から、私自身は毎回、参加しています。私が専門とするオーストロネシア諸語（台湾、東南アジア島嶼部、太平洋、マダガスカル言語）については国際オーストロネシア学会があるのですが、他の語族の研究者がどういう研究をしているのか知りたいと、印欧諸語が中心のこの学会に参加したのです。

最近では印欧諸語以外の言語の研究参加が増えてきていま

語族の垣根を越えて

す。今回も語族の垣根を越えて議論するよう、プログラムを組みました。

各地の手話を比較

——今回はこれまでより参加人数が多いようですね。

◆これまで数えられるほどしかいなかったアジアからの参加者が増えました。中国、韓国、香港をはじめ、タイ、フィリピン、シンガポールなどからも参加があります。インドからはIT（情報技術）産業の盛んなお国柄を反映してコンピューター処理についての発表が目立ちます。い



つも数人しかいない日本からの参加者が多いのもうれしい誤算でした。

——今回、ワークショップ（分科会）のテーマに手話を取り上げたのは新しい試みですね。

◆手話をテーマにしたいというのは、私が学会開催を引き受けたときから思っていたことです。日本では手話が言語であるという認識が低いようです。言語である以上、歴史言語学的な研究があつて当然なのに、国際学会でもそのような議論の場を見ません。

手話は地域ごとに異なり、例えば、アメリカ手話がフィリピン

ン手話に大きな影響を及ぼしたように歴史的にさまざまな関係もあります。今回、手話のワークショップを提案した大杉豊さん（筑波技術大学准教授）は、日本語の30語について各都道府県でどのように異なっているかを地図と動画を使ってインターネット上で紹介しています。

——日本語の起源についてのシンポジウムもありますね。

◆日本ではかつて、日本語の系統、起源についての議論が盛んでしたが、今は低調で、系統論自体がきちんとした学問ではないような印象さえ持たれているように思います。しかし、海外では、歴史言語学によって科学的な検証をしながら日本語を含めて系統について盛んに議論されています。そのことを日本の研究者や特に大学院の学生に知ってもらいたいというのが、この学会の日本での開催を引き受けた動機でした。通常、この学会の日程は月曜から金曜までですが、土曜を追加して、海外の研究者による日本語の起源についての一般公開のシンポジウムを開きます。ぜひ参加していただきたいと思います。

一般公開プログラム

国際ワークショップ「手話の歴史言語学—データベースの構築と一般歴史言語学における展開を目指して」

28日8時半～12時40分。1901年以降の日本手話の歴史的变化のデータベース、日本手話の性、親族関係の表し方についての分析、東南アジアの手話言語の歴史言語学的研究、東アジアの手話言語の比較などについて発表がある。日本語、英語、日本手話、アメリカ手話の同時通訳付き。

国際シンポジウム「アジア・太平洋地域諸言語の歴史研究の方法—日本語の起源は解明できるのか」

30日9～18時。日本語とユーラシア大陸北方のアルタイ諸語、モンゴル諸語、朝鮮語（韓国語）との比較や琉球諸語の位置づけ、シナ・チベット語族などアジア・太平洋地域の諸語の歴史言語学的研究について発表がある。日英同時通訳付き。民博主催、毎日新聞社後援。

いずれも無料。申し込み必要。詳しくは（<http://www.minpaku.ac.jp/research/pr/20110725-30.html>）。